



データ基盤整備 「地球環境データ」

平成21年度補正予算で建設した南極昭和基地大型大気レーダー(PANSY)を活用するPANSYデータ解析センターとしてレーダーの運用を国内からサポートし、観測データを解析・配信する共同利用を確立する。また、PANSYの観測データを始めとする地上観測・衛星観測のモデルへのデータ同化により、特に極域大気を強化した電離・中性全大気データベースを作成し、地球気候変化メカニズムの解明に迫る種々の研究の展開を図る。



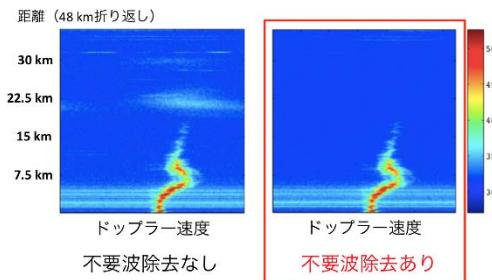
PANSY観測データの国内へのリアルタイム転送とアーカイブのシステムを開発し、南極域の大気の貴重な観測データを蓄積している。観測データの品質を24時間監視する体制が構築され、観測データの連続性・品質が大幅に向上した。

PANSY観測の多量のデータを高次解析処理して物理量データとして国内外に配信を行った。

リアルタイム
データ表示
システム→

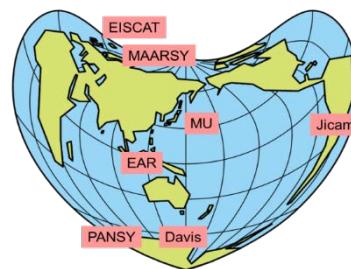
リアルタイムデータ転送システム監視システム(多重系の監視)

レーダーのデータ処理技術を駆使して、観測の品質向上を行った。



- グローバルな大気温度分布を左右する「地球大気循環」の要所である南極上空を人類初の高精度な測器で観測することで、地球環境変動の予測精度の向上に貢献する。
- 南極観測史上に我が国が大きな足跡を残して南極条約関係諸国中の存在感を高める。
- 先端的な大型観測装置により若手研究者を育成する。

我が国発の国際協同観測、我が国が主導する国際共同研究の展開。



←ICSOMキャンペーン(2016)の主導

高精度の観測データを提供し、気候モデルの改良に貢献